



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 大地震！ 耐震性のない木造住宅が市内に 7,000 戸

市民の生命と安心安全な暮らしを守ることは、行政の第一の務めです。これまで、原子力災害広域避難計画を県内でいち早く策定し、広域消防を実現させ、防災ベッドや屋内耐震シェルターのほぼ全額補助を実施するなど、災害対応力アップを図ってきましたが、さらなる防災力向上には、市内全域で住宅の耐震化率を上げる取り組みが必要です。



防災ベッドと屋内耐震シェルター

南海トラフ地震の発生が懸念されている中、皆様のご自宅や店舗、工場がある場所の予想震度をご存知ですか。県の第4次地震被害想定によると、市内全域の約1%が震度7、約75%が震度6強に見舞われるという予測が出ています。市のホームページなどで予想震度を公開していますので、一度、調べてみてください。また、当市に津波の心配はありませんが、地震の揺れで倒壊する危険性が高い木造住宅が約7,000戸あることが課題です。木造住宅密集地では建物倒壊による火災発生が危惧され、避難時の道路をふさぐ、隣家に被害が及ぶなど、二次被害のリスクが高まります。

平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」では、旧耐震基準（昭和56年5月以前）により建設された木造住宅に倒壊被害が集中していたことから、法律が改正され

「震度6～7で倒壊しないこと」が現在の耐震基準になっています。平成28年3月末の当市の耐震化率は、目標値90%に対して79.2%。目標値に届かない理由として、年金生活者には耐震工事代金の負担が重くのしかかることが推察されます。そこで、住まいの耐震補強補助金を一般世帯60万円、高齢者世帯80万円に増額しました。これは、県内トップクラスの高い補助率です。同時に、事業期間を平成32年度まで延ばして、住宅耐震化率の向上を目指します。

昨年度は、旧耐震基準で建築された住宅284戸に市職員が直接訪問し、耐震補強の必要性や補助制度を説明して回りました。また、これまでに約4,700戸の対象住宅に文書により案内をしています。今後も、戸別訪問を継続しますので、皆様のお宅へ伺うことがあれば、ぜひ職員の説明を聞き、疑問や質問をぶつけてみてください。その際は、島田市職員であることの確認をお願いします。



熊本地震で倒壊した家屋

他にも、ブロック塀の撤去や生け垣作り補助金などもありますのでご相談ください。地域総ぐるみで災害に強いまちを造るために、皆様のご協力をお願いします。

「広報ひみ」から

姉妹都市である富山県氷見市から寄せられたイベント情報などをご紹介します。

氷見ならではの美味が一堂に集結する「ひみ永久グルメ博」は、今年で第3回目を迎えます。グルメ博では、漁師町の大漁鍋を限定販売するほか、すし組合の握る本格ずし、氷見牛串焼などのご当地グルメを満喫できます。
とき／10月30日(日)午前9時～午後3時
ところ／氷見漁港内 ひみ漁業交流館「魚々座」周辺
㊟氷見市観光交流・若者と女性の夢応援課
☎ 0766-74-8106



昨年の「ひみ永久グルメ博」

姉妹都市からお越しになり、氷見市内で宿泊された先着500人の皆さんに、氷見の特産品をプレゼントしています。詳しくは、氷見市観光情報センター（☎ 0766-74-3521）へ。